

# THE GRAND TOUR

愛を求め、時空の彼方へ  
星の流る夜  
男は旅立った。

第20回アヴォリアッツ国際ファンタスティック映画祭正式出品

## グランド・ツアー

ジェフ・ダニエルズ

アリアナ・リチャーズ/エミリア・クロウ/ジム・ヘイニー  
製作総指揮ポール・ホワイト/製作ジョン・オコナー  
監督・脚本デビッド・トゥーイ/撮影ハリー・マティアス  
YTS山形テレビ製作/グランド・ツアー・プロダクション  
チャンネル・コミュニケーションズ(株)提供/CFD映画配給

© 1991 DRURY LANE HOLDINGS N.V. All Rights Reserved

Specialty  
DOUGLAS STREIN  
S&A  
大塚製薬

# 話したいけど話せない

## 「グランド・ツアー」のおもしろさ。

萩尾 望都(漫画家)

そう、こういう、ロマンチックでおしゃれでミステリアスなSF映画を見ると、やっぱりアメリカ映画はいいなあと思ってしまう。

何年前かニューヨークに出かけて、あまりのゴミの多さ、摩天楼の暗さに、「いまにアメリカ力は減びる」と、気を滅入らせて帰ってきたものの、映画を見ると、「うーん、文化の底力はスゴイ。なかなかあなどれないな」と、感心してしまう。

「E.T.」とか、「スター・マン」とか、「ゴースト/ニューヨークの幻」とか、アメリカ映画には、ごくふつうの日常を送っていた人がある日、ふと…、この、ふと…がくせものだが、ふと、ありそでなさそな、信じられない事件に出くわして…と、宇宙人や幽霊も出てくるのだが、そのやり方がどれも面白い。

この「グランド・ツアー」の登場人物も、ごくふつうの人。

主人公のベン・ウィルソン(ジェフ・ダニエルズ)は、大工仕事がよくない父親。小ぶりの品のいい古い家を手に入れて、アット・ホームなホテルにしようとの家の修理中。それを手伝って元氣な小学生の娘は父親が大好き。母親は?母親は…昔、ちょっとショックな事故で死んでしまった。「エリーゼのために」をよくピアノで弾いていた。父親は右手だけで、つたなく弾いている。そして娘に「ママはもっと上手だった…」と語る。

緑多い丘に囲まれた平和な小さな町。ところがある日そのホテルに予約無しでちょっと変わった観光客があらわれる…と、いうふうな物語は展開するのだが、いやあ、これが上手いのだ。ドキドキする。

日常と非日常を交差させ、少しずつアレ?アレ?と思わせていくバランスがうまい。

この「グランド・ツアー」のデビッド・トゥーイ監督は、これがデビュー作でこの脚本も手がけている。えー、デビュー作でこれぐらいのレベルを撮ってしまう監督が、アメリカにはゴロゴロいるわけ?と、驚いてしまう。

ホテルは修理中だから、街中の、もっといいホテルを紹介すると言うベンに、変な客らは札束をバラッと見せて、「ここでいい」言うのだ。

「彼らはどこから来たんだ?」と客をつれてきたバスの運転手に聞くと、「何もない道の途中に大量のトランクと共に立ってた」

と言うので、あら?あら?と思つてると、これから大変なことが起こるのだ。変なのも当然、この人たちは現代の人間じゃないのだ。

え、何か、しに来たの、この客?いや、何もしない。しないのが、大変なんです。

何もしないのに大変なことが起こる?

起こるんですよー/こわいことがー!

で、私は主役のジェフ・ダニエルズ演ずるベンに引っぱられてぐいぐいと物語世界に引きこまれて行ったのだが、いやー、感心するのが「どうしてこんなに上手いんだろう。」

もちろん、トゥーイ監督にSFマインドがあるのは解るんだけど、一人の役者がこんなにも非日常の世界観を創りあげていけるなんて…。未来から来たというお客に翻弄される姿はもちろん、彼は「昨日」に出かけて、「昨



●キャスト  
ジェフ・ダニエルズ  
アリアナ・リチャーズ  
エミリア・クロウ  
ジム・ヘイニー

●スタッフ  
製作総指揮:ポール・ホワイト  
製作:ジョン・オコナー  
監督・脚本:デビッド・トゥーイ  
撮影:ハリー・マティマス

1991年/アメリカ映画/1時間23分  
YTS山形テレビ製作/グランド・ツアー・プロダクション  
チャンネル・コミュニケーションズ提供/CFD映画配給

日」の自分と会って、大声でケンカしあう、なんてハメに陥ったりするのだ。

いやー、すごい。アメリカってこんな役者がボロボロいるのか…と思ってたら、トゥーイ監督は、父親のベンの役はぜひダニエルズにと、最初に決めたとのことで、ああ、イメージがピッタリあったんだなー、うーん、キャストिंगの目ききもしっかりしている、とまた感心。

で、ストーリーは?いや、言わない。

これはミステリアスでロマンチックな話だから、映画を見る人の楽しみのために言わない。この映画の一番おもしろい部分については、私は絶対言わないぞ。うーん、楽しみでしょ。

あとひとつ、言うとしたら、娘のヒラリー役のアリアナ・リチャーズが、とっても可愛い。特にいいのはラストのピアノ曲が…。いやいや、言わない。



5月23日(土)ロードショー!  
特別鑑賞券発売中1300円(当日鑑賞券1600円/学生1300円のところ)

歌舞伎町コマ劇場広場前

新宿シネパトス

03(3209)2131

銀座三越先・歌舞伎座手前

銀座シネパトス

03(3561)4660